

学長業績評価の結果について

令和3年9月13日
国立大学法人電気通信大学
学長選考会議

国立大学法人電気通信大学学長選考会議は、「国立大学法人電気通信大学学長選考会議規程」第4条第4号の規定に基づき、学長の業績評価について、下記のとおり評価を実施しました。

記

1. 実施方法

「電気通信大学学長業績評価実施要項（以下「要項」という。）」の規定に基づき、学長選考時の所信表明、学長ヒアリングの結果等を総合的に勘案し、監事の意見を聴取した上で評価を実施した。

2. 評価期間

要項「1.」の規定に基づき、令和2年4月1日から令和3年3月31日までを評価期間とした。

3. 評価結果

新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」とする）の影響により、全ての運営面において、これまでにない対応や判断が求められる中、学長着任日に危機対策本部の設置により学内の体制を整え、直後の緊急事態宣言の発令等に迅速かつ適切に対応していた。また、同本部を毎週開催することで、その後の遠隔授業への実施から対面授業や研究活動の再開等、感染拡大状況及び政府や都の方針にスピード感を持って対応しただけでなく、困窮学生への経済的支援や学生へのメンタルケア等、個々の学生に行き届くきめ細やかな対応を実現したことは、学長の強いリーダーシップによる成果と言え、感染症への対応は総じて非常に高く評価できる。

また、「D.C. & I. 戦略推進会議」立ち上げ、新たなビジョンの策定と多くの改革に着手したことは初年度の取組としては十分に評価できる。学域段階における入試改革など、感染症の影響が起因するコミュニケーションの不足等により進捗が芳しくない部分もあったが、来年度以降、感染症対応の経験を電気通信大学らしく昇華させた新しい大学の姿を社会に発信できるよう、リーダーシップの更なる向上による取組みの強化に期待する。

なお、感染症の影響により多くの活動が制限される中で、「学長トーク」の開催をはじめ、全ての構成員とのコミュニケーションに努力しており、構成員もそれを実感していることを確認した。現時点においても感染症の終息が見えない中において、改めてコミュニケーションの在り方を見直す等、引き続きの努力と更なる対話の充実を求めたい。